

南空知地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

農業高校に3年間通った後、札幌の専門学校で自動車工学を学びました。在学中にはボーイズコンテストに出場したことがきっかけで芸能事務所に所属し、東京で約2年間活動していました。しかし、新型コロナウイルスの影響で思うように活動ができなくなり、地元に戻るようになりました。地元に戻った後、職探しの間に家業の農業を手伝うようになり、少しずつ農業への興味が湧いてきました。

その後、自動車の整備士として2年間勤務しましたが、結婚を機に『夫婦で農業に取り組みたい』という思いが強くなりました。妻も農家出身で幼い頃から農業に携わっていたこともあり、2023年に親元で就農しました。

現在は家族経営で法人化し、父が社長、私が専務として、母、妻とともに4名で営農しています。

2026年6月取材

佐藤 聡太 さん（美唄市）

就農年：2023年4月

経営形態：土地利用型農業

作物：水稻・ばれいしょ

【栽培について】

水稻を中心に、主食用米と加工用米の両方を作付けしています。品種はいずれも『ななつぼし』です。総面積46haのうち約10haでは乾田直播栽培を行っています。

もともとはすべて移植栽培を行っていましたが、作付面積の拡大に対して育苗ハウスが不足していたため、直播栽培を導入しました。さらに昨年からは、高密度播種栽培（密苗）にも取り組んでおり、苗箱の数を従来の約3分の1まで削減することができました。これにより、限られた施設でも効率的に栽培ができるようになっていました。

また、少量ですがばれいしょの栽培も行っています。

【就農して苦労したこと】

農業は天候に左右されるため、思うようにいかないことも多くあります。特に春の田植え前の時期は作業が集中し、体力的にも精神的にも負担が大きいと感じています。



【水稻の生育状況を確認する佐藤さん】

【地域との関わり】

就農してからJAびばい青年部に加入しました。そのことで、美唄市内だけでなく全道や全国の農業者とのつながりができ、様々な情報を得られるようになりました。

技術面だけでなく、同じ農業者同士で意見交換できることも大きな刺激になっています。

昨年は北海道農協青年部協議会が主催する『純農boyコンテスト』にJAびばい代表として出場しました。空知地区予選でグランプリを獲得し、全道大会にも出場することができました。普段は緊張しやすいタイプですが、舞台に立つとスイッチが入る感覚があります。今回は上位入賞には届かなかったのですが、来年はリベンジしたいと思っています。



【美唄の良さを再認識】

様々な地域の農業に触れたことで、それまで当たり前だった美唄市の風景や営農環境を違った視点で見るようになりました。

平坦で作業しやすい農地やまとまりのあるほ場など、恵まれた環境の中で農業ができることのありがたさを改めて感じています。

【オフタイムの過ごし方】

冬期間の収入確保のため、キッチンカーでの販売も行っています。イベントでおにぎりを販売したり、冬は美唄市内のスキーパークでじゃがバターを販売しています。おにぎりは母が主体、じゃがバターは自分が主体となって取り組んでいます。年間を通じた収入の確保につながるとともに、自分たちで生産した農産物を活用できることにも魅力を感じています。

【今後の展望】

父が築いてきた農業のスタイルが好きだと感じています。この農業の継承を大切にしながら、省力化や効率化を進め、より持続可能な経営にしていきたいです。

現在の経営面積は46haですが、将来的には100ha規模まで拡大したいと考えています。



【営農に活用する農業用機械】

現在はトラクターに自動操舵システムを導入し、作業の効率化を進めています。また、自動車整備の経験を生かして農業機械のメンテナンスも自ら行っています。さらに、昨年からはドローンによる防除を導入するにあたり、自ら免許を取得し、運用を担当しています。今後もスマート農業技術を積極的に取り入れ、省力化と効率化を進めていきたいと考えています。

【今後、就農する方々に伝えたいこと】

農業のやりがいは一年一作の中で、前年の反省を次に活かしながら、自分で工夫して改善していけるところにあると思います。例えば、雑草対策ひとつでも、課題に対して解決策を調べて、考えて、実践する。その過程も含めて農業の面白さだと思います。

親や指導者の意見を尊重することを前提としたうえで、親の考えだけにとらわれず、地域の農家や仲間から幅広く意見を聞いてください。いろいろな方法を学びながら、自分なりのやり方を見つけていくことが重要だと思います。